

NO. 69

すくらむ

2007. 7 発行



福井県特別支援教育センターは、県立病院関連四機関の4階にあります。

- P.2 特集「福井県の特別支援教育」 地域を支える取り組み
- P.3 特集「特別支援教育コーディネーター養成研修」 小・中学校の取り組み
- P.4 研修内容の紹介 「特設講座」「地域支援専門研修」
- P.5 新施設紹介 福井県特別支援教育センター・福井県立福井東養護学校
- P.6 シリーズ 学校・学級紹介 福井県立嶺北養護学校



新センターと 特別支援教育の推進

福井県特別支援教育センター 所長

松井 富美恵

4月より、特別支援教育センターは、県立病院関連四施設の一つとして、こども療育センター、看護専門学校、福井東養護学校とともに新築移転しオープンしました。昭和58年4月に福井県特殊教育センターが開所して以来25年目となり、「福井県特別支援教育センター」と名称が変わりました。施設面では、明るく広いプレイルームや観察室、情報・研修室や三つに仕切ることのできる研修室などを備え、また特色のある相談室も4室あり、充実しました。

さて、御存じのように、学校教育法等の一部改正が行われ平成19年4月1日から施行されました。特殊教育諸学校は特別支援学校となり、幼稚園や小・中学校、高等学校等の要請にもとづき、在籍する特別な教育的ニーズのある子どもへの支援を促進すること、また、小・中学校等においてはLD・ADHDを含む障害のある児童生徒に対して特別支援教育を実施することが規定されました。

このように、特別支援教育への取り組みが本格化する中、当センターは様々な業務や事業を実施しています。教育相談や教育指導、巡回指導業務は、県内を4地区に分けチームを組んで行っています。教育相談は、養育・就学・学習など多様な内容で、最近では発達障害と思われる子どもの相談も増えています。教育指導では、当センターにおいて、発達の遅れや気がかりな面のある子どもを対象とした小集団指導、個別のブースを活用した指導を行っているほか、園や学校との相談も行います。巡回指導では、小・中学校の通常学級に在籍する特別な教育的ニーズのある児童生徒を対象に、学校に出向いて指導を行います。

一方、特別支援教育を担う人材育成のための研修事業や調査・研究および啓発事業にも力を入れています。特に、平成13年度から全国に先駆けて特別支援教員研修（小・中学校）、地域支援教員研修（当時：特殊教育諸学校）の名称で実施してきた教員研修のうち、県内小・中学校の特別支援教育コーディネーター養成研修では、昨年度126名に対し今年度は154名が受講しています。受講者には、コーディネーターとしての専門性を高めて各学校で活躍していただきたいと思います。また、本年度より地域支援専門研修と名称を改めた特別支援学校の特別支援教育コーディネーターの養成研修は、各特別支援学校から9名が受講しています。保護者への支援や関係機関との連携など実習的、専門的な研修を積んで、実践的指導力を高めます。そのほか地域相談支援活動として学校説明会の開催や医療・福祉・教育の専門家と連携しての巡回教育相談会を実施しています。昨年度は19回実施し合計194名の来談者がありました。今年も各地を巡回して、発達上の遅れや就学などで気がかりな子どもたちのための教育的な相談・支援を行います。

また、小・中学校だけでなく幼稚園・保育園や高等学校も含め県内各地域で特別支援教育を進めるために、教育上特別の支援を必要とする子どもの教育に関して、各特別支援学校も必要な相談・支援を行っています。それぞれの地域で特別支援学校と各学校とのつながりを強め、保護者や担任が一人で悩み、抱え込むことなく活用していただきたいと思います。一人の子どもの成長と将来のために、必要なときに必要な支援をすることが大切です。このほど当センターでは、「子どもの育ちを支える・つなぐ」と題したリーフレットを新しく作成しましたので、活用していただければ幸いです。

特別支援教育元年となる今年度、新しくなった当センターでは、所員一同新しい気持ちで関係の皆様との連携により諸業務や事業を進め、特別支援教育の推進と充実に一層努めていく所存ですので、何とぞ各位の御協力と御支援を賜りますようお願いいたします。

「福井県の特別支援教育」

地域の園や学校を支える 特別支援教育センター 嶺南教育事務所 特別支援学校

平成18・19年度 県単事業「発達障害児支援推進事業」

支援する園や学校の割り当て

支援をする幼稚園、小・中学校、高等学校が各特別支援学校に割り当てられ、担当する幼稚園や学校からの求めに応じて巡回相談を行います。

特別支援教育センターと嶺南教育事務所特別支援教育課も今まで通り、全県を対象に巡回相談や巡回指導を行っています。



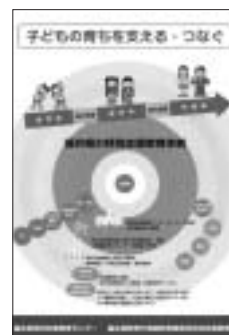
高等学校にも支援に行きます

今年度、高等学校への支援を行うにあたって、センター的機能推進研究協議会の中で高等学校の先生を講師として招くなど専門性を高める取り組みを行っています。



ガイダンス

特別支援教育に関するガイダンスは、昨年度は主に小学校で行ってきました。今年度は、幼稚園、中学校、高等学校でも実施していきます。リーフレット「特別支援教育」「子どもの育ちを支える・つなぐ」もご活用ください。



！ 公開講座 にも注目

各特別支援学校では、地域や学校のニーズに応じた様々なテーマで公開講座を行っています。詳しくは、各校からの案内、ホームページ等をご覧ください。



県内5地区を支える 専門家チーム

文部科学省 委嘱事業「特別支援教育体制推進事業」

平成18年度は、県内を坂井、奥越、福井、丹南、嶺南の5地区に分け、地区毎に専門家チームを設置して、地域の課題に合わせた様々な取り組みが行われました。昨年度の専門家チームの取り組みを紹介します。



地区	福井地区	丹南地区	坂井地区	奥越地区	嶺南地区
活動内容	福井市の特別支援教育体制を整備することを目的に4つのワーキングチーム（①専門家チームの役割②特別支援教育コーディネーターの役割③個別の支援計画④継続的な支援の在り方）に分かれて検討しました。	丹南地区専門家チーム連絡会を設置し、鯖江市、越前市、越前町、池田町・南越前町の4つの地域に分かれて特別支援教育コーディネーター研修会や就学指導委員の研修会を行いました。	坂井市とあわら市と合同で年間5回開催しました。小・中学校から最低1回は代表が参加するようにし、支援が難しい事例や校内の支援体制について報告し、専門家チームが助言しました。	大野市と勝山市の特別支援教育の現状について話し合いました。小・中学校それぞれで連絡会を実施し、専門家チームのあり方について検討しました。	嶺南地域全体の特別支援教育の状況について話し合いました。また、4つのブロック（美浜・若狭、おおい・高浜、敦賀市、小浜市）ごとに特別支援教育研究会を実施しました。

！ そして 今年度は

☆課題を整理し、専門家チームの役割を明確にします。
☆高等学校を支援する専門家チームを設置します。



活用しやすい
専門家チーム
を目指します。

特別支援教育コーディネーター養成研修

小・中学校における特別支援教育体制は、表1のように整備されてきていますが、今後は個別の指導計画や個別の教育支援計画を作成し、子ども達へ具体的な支援をしていくことが課題となってきています。

当センターでは、特別支援教育の更なる充実を目指して、小・中学校の先生を対象に特別支援教育コーディネーター研修を行っています。研修の主な内容は以下の通りです。

今回は、6月に行われた第2回研修会の様子について報告します。

第1回研修会（4月）

- ・コーディネーターの役割を知ろう
- ・研修計画を立てよう

第2回研修会（6月）

- ・ファシリテーションを学ぼう
- ・「模擬支援会議」を体験しよう

第3回研修会（6月～）

- ・校内で特別支援教育の学習会を開こう

第4回研修会（10月）

- ・中間報告会で情報を交換しよう

第5回研修会（2月）

- ・最終報告会で1年間の取り組みの成果や課題を発表しよう



ファシリテーション

午前中はチームで支援を考える際に役立つファシリテーションのスキルについて研修しました。

ファシリテーションには、引き出す、促進するという意味があります。話し合いの中で個人や組織の力を引き出す効果的な方法を講義と演習を通して研修しました。参加者全員の意思を統一していく合意形成のプロセスの大切さを学びました。



みんなの情報を整理する...

模擬支援会議

午後は、学校生活に苦戦する児童のケースをもとに「模擬支援会議」を行いました。



支援シートを活用して、個別の指導計画を作成しました。保護者、担任、特別支援教育コーディネーター、管理職、養護教諭の役に分かれ、ロールプレイで支援策について話し合いました。

保護者の気持ちがよくわかる...

研修を活かしてがんばっています（昨年度の研修者より）

■ 支援する人の手が足りないよ...

- ・市で特別支援教育の支援員を配置していただきました。（A校）
- ・ライフパートナー（学校に来て不登校や発達障害の子を支援する制度により派遣される福井大学の学生）に来てもらったら、子どもが大喜びでした。（B校）
- ・退職された先輩教員の方がボランティアで来てくださっています。（C校）

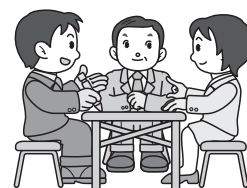
■ どのように支援を考えたらいいの？

- ・特別支援教育センターから「支援シート」を紹介されました。それを使って検討したら、支援の糸口が見えてきました。（H校）
- ・本校では、児童の実態に合うようにアレンジした支援シートを使っています。（I校）

※「支援シート」は、当センターのホームページで閲覧できます。

■ 支援会議を開きたいけど時間がない...

- ・月に1回は支援会議を設定するように年間計画を立ててもらいました。（D校）
- ・小規模校なので、毎日のように相談しています。毎日が支援会議です。（E校）
- ・「3人寄れば支援会議」を合い言葉に、関係の先生が集まったら、即会議です。（F校）
- ・大規模小学校なので、低学年、中学年、高学年それぞれにコーディネーターを配置し、それぞれのグループでミニ支援会議を行っています。（G校）



■ 発達障害について勉強したい

- ・特別支援教育センターの所員による現職教育で、障害に関する基本的な理解ができました。（J校）
- ・近くの特別支援学校の相談の先生が、ケース会議に参加してくださいました。アドバイスをいただき、助かっています。（K校）
- ・特別支援学校の公開講座に参加しました。自閉症についてよくわかりました。（L校）





研修内容の紹介

平成19年度 研修が始まっています

● 特設講座

今年度は、研修講座全17講座のうち2講座を、更に専門性を高める講座として開設します。この2講座は、発達障害の生徒の思春期における問題行動や、LD（学習障害）のある児童・生徒の実態に即した適切な指導や支援について、焦点を絞った内容で実施します。中学校、高等学校の先生方も参加されます。



No.16 平成19年9月26日（水） 午後開催

特設Ⅰ「思春期における問題行動と二次障害」

講 師：県立大学学術教養センター准教授 清水 聡 氏

会 場：県立大学共通講義棟110大講義室
(変更になりました)

No.17 平成19年8月27日（月）

特設Ⅱ「LDのある児童・生徒への支援」

講 師：星槎大学専任講師 伊藤 一 美 氏

会 場：敦賀市福祉総合センター あいあいプラザ

● 地域支援専門研修

特別支援学校において、地域支援を中心になって推進していく先生を対象に、「地域支援専門研修」を行っています。この研修では、研修者自身が所属校の実態や研修者のニーズに合わせた研修課題を設定し、問題解決に必要な実習や調査を行う中で専門性を高めます。今年度は、5回の研修会を開催しています。



（なお平成20年2月14日に行われる、当センターの研究発表会においてパネル発表を行う予定です。）

【第1回研修会】

研修者及び所属校の地域支援の現状と課題について話し合いました。

【第2回研修会】

福井大学 松木健一先生をスーパーバイザーとしてお招きし、研修者の研究内容について検討し、研修計画の見直しを行いました。



研 修 講 座 よ り



平成19年5月17日（木）

No.1 特別支援教育入門

ー幼児期から就労まで繋がる支援ー
(兼：初任者研修)

講師：福井大学教育地域科学部教授 松木 健一 氏

会場：特別支援教育センター

受講者数：63人

松木先生からは、「特別支援教育への転換と課題」「特別支援教育で求められる支援」と題して、講義をしていただきました。担任は、支援を必要とする子どもだけでなく、周囲の子ども達や保護者、同僚あるいは上司等の関係の中で、日々苦戦しているため、担任の置かれている状況を周囲が理解し支援する必要があること。また、それぞれの世代の教師が各自で力を出すことで学校がまとまること等のお話がありました。

（受講者の感想から）

- ・障害というものをどう考えるかという点について、自分の考えを再度見直すよい機会となった。また、周囲とのかわりや連携等の大切さを改めて感じた。
- ・特別支援に目を向けるということは、様々な子どもの支援につながると強く感じた。



平成19年5月25日（金）

No.15 学校経営の充実をめざして

ー「学習」と「教育」のマネジメントから見た学校とはー
(特別支援教育コーディネーター養成研修 推奨研修)

講師：東京農業大学農学部教授 滝 坂 信一 氏

会場：県立大学交流センター

対象：管理職

受講者数：176人

この研修講座には高等学校の先生の参加もあり、特別支援教育への関心の高さが伺えました。

県高校教育課特別支援教育室からは、「福井県の特別支援教育の現状と課題」について報告がありました。その後、滝坂先生から「学校とはどういうところか」と題して、特別支援教育とは発達障害に限らず支援を必要としている子すべてに対して取り組む必要があることや、学校は①知的好奇心の向上、②自治を学ぶ、③文化に触れる場所であること等の講義がありました。



（受講者の感想から）

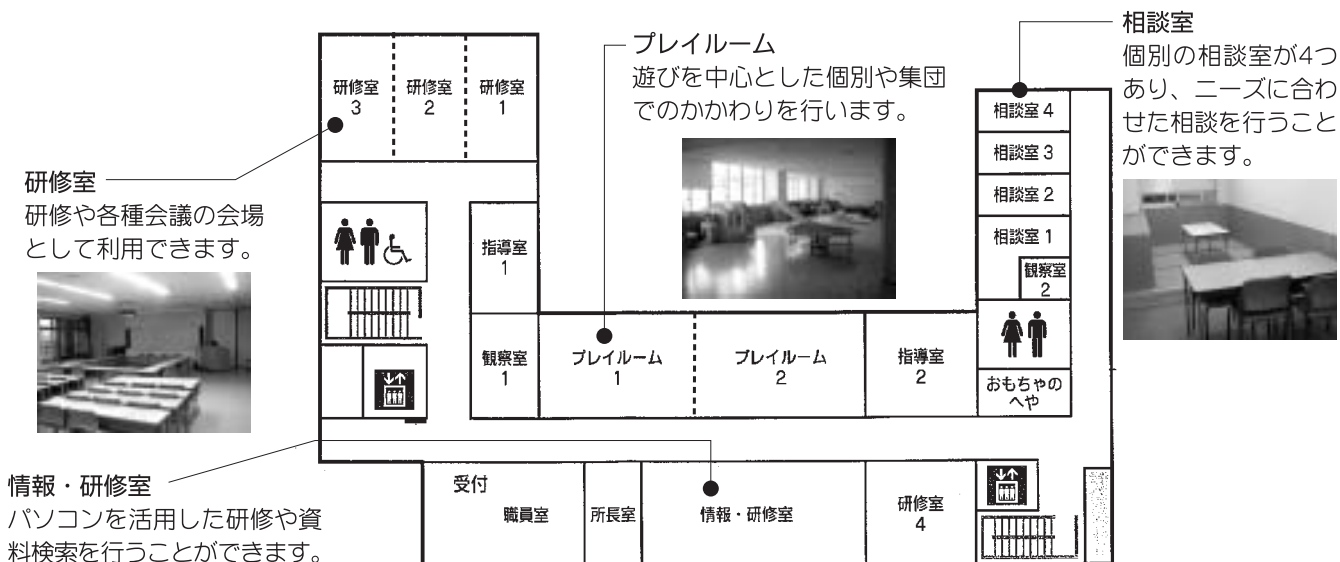
- ・現場こそが、子どもと向き合いながら社会を変える発信地という意識で、更なる努力を重ねたい。
- ・学校というシステムをどう作りかえていくかは、特別支援教育に限らず最大のテーマであり、学校を支える人々の意識改革をどう進めるかが課題である。



新施設紹介

福井県特別支援教育センター

特別支援教育センターは、特別支援教育の理念や基本的な考え方をもとに、幼児・児童・生徒の立場に立って、将来の自立に向けた教育を支援するとともに、専門機関として質の高いサービスに努め、福井県の特別支援教育を推進します。



福井県立福井東養護学校

図書室



リラックスして本が読める、畳コーナーがあります。

中庭



花や野菜を育てるミニ花壇や畑があります。ゆっくり自然を感じながらベンチで憩うことができます。

体育館



ダイナミックに プレイルーム体を動かしたり、ボールプールやミラーボールなどの感覚遊具で遊んだりします。

理科室



プラネタリウムを備えた理科室や調理室など特別教室がいろいろあります。



調理室



パソコン室



ランチルーム

ご相談のある方は、お気軽にお電話ください。子どもたちが元気になるよう、一緒に考えていきましょう。

TEL (0776)53-6575

E-mail:mail0002@fukuihigashi-sh.ed.jp

福井県立 嶺北養護学校



本校小学部低学年では、子どもたちの好きな遊びを学年全体でダイナミックに設定する、「わんぱくタイム」を年3回行っています。その中の一つ「段ボール遊び」を紹介します。

「段ボール遊び」では、段ボールの感触を楽しむこと、好きなコーナーを見つけて楽しむこと、友達と一緒に段ボールを使った遊びを楽しむことを主なねらいとしています。プレイルームと一つの教室を図のように設定し、子どもたちの幅広い興味・関心や能力に応えるように様々なコーナーを設けています。滑り台コーナーでは、大きな滑り台を段ボールそりや箱で滑って楽しめます。そりや箱に乗って滑ると、体で滑るのと違うスリル感が味わえるようで、子ども達は自分で箱やそりを運んでは何度も滑っています。迷路コーナーでは、段ボールで作った迷路の中にカラーボールプールやトンネル、橋、山、八角形のブロックなどの大型遊具、ビールケースで作った



起立訓練台

2階建の部屋等を組み入れています。ここでは、段ボールという素材に自然に触れながら、這う、登る、くぐるなどの全身を使ったダイナミックな動きを楽しむことができます。

子どもたちは、迷路の中を汗びっしょりになって動き回ったり、気に入ったコーナーで長時間遊びに浸ったりしています。また、子どもによっては隠れんぼや鬼ごっこ、宝探しの遊びへと発展させることができ、段ボールの壁越しに大きな声で友達や教師を呼び合ったりする姿も見られます。お家コーナーでは、段ボールで作った家の中でおままごとをしたり、大きな段ボールのキャンバスにマジック等で自由に絵を描いたりして遊びます。お家コーナーは比較的静かな空間となっていて、友達や教師とやりとりを楽しみながら遊んだり、長い時間お絵描きに没頭したりする子もいます。この段ボール遊びの設定は1週間継続し、子どもの興味・関心に合わせて少しずつ環境を作り変えながら、好きな遊びに十分浸れるようにしたり新たな遊びに誘ったりして、遊びや人とのかかわりが広がるように配慮しています。



平成19年度特別支援教育関連研究大会等

- 第42回 全国知的障害養護学校教頭大会
7月26日(木)～7月27日(金) 国際交流会館
- 第29回 東海北陸特別支援教育研究大会(名古屋大会)
7月26日(木)～7月27日(金) 名古屋市公会堂・国際会議場
- 第29回 福井県養護学校教育研究大会
8月8日(水) 南越養護学校・福井大学附属特別支援学校
10月10日(水) 南越養護学校
- 第46回 全日本特別支援教育研究連盟全国大会(佐賀大会)
10月24日(水)～10月26日(金) 佐賀市文化会館他
- 第53回 福井県特別支援教育研究大会(二州ブロック大会)
11月22日(木) 敦賀市 あいあいプラザ、プラザ万象
- 福井県特別支援教育研究振興大会・青空教室
10月28日(日) 鯖江市 鯖江市文化センター
- 第37回 北信越知的養護学校教育研究協議会(新潟大会)
11月8日(木)～11月9日(金)
長岡市ホテル・ニューオータニ長岡、長岡市立養護学校
- 第43回 福井県特別支援教育ゼミナール および
第20回 福井県特別支援教育の発展を願って語る会
1月18日(金) 敦賀市 サンピア敦賀

編集後記

平成19年4月1日に、当センターは、「特別支援教育センター」と名称を改め新しい施設で業務を始めました。今回の「すくらむ」では、特別支援教育センターと、ともに新しくなった福井県立福井東養護学校を紹介しました。また、前号に引き続き、本年度の「特別支援教育体制推進事業」と「発達障害児支援推進事業」の取り組みについて特集しました。

当センターでは「すくらむ」についてのみなさんのご意見、ご感想をお待ちしています。

センターだより すくらむ 第69号

発行日 平成19年7月9日

発行所 福井県特別支援教育センター

所在地 〒910-0846 福井市四ツ井2丁目8-1
TEL (0776)53-6574 FAX (0776)52-6272
E-mail info@fukuisec.jp
URL http://www.fukuisec.jp

福井県教育庁嶺南教育事務所特別支援教育課
〒917-0241 小浜市遠敷2丁目205
TEL (0770)56-1095 FAX (0770)56-1391

敦賀駐在 TEL/FAX (0770)24-0421

印刷所 創文堂印刷株式会社